

シーボルト記念館だより No.88

Siebold Memorial Museum Journal

特別展「没後 150 年 伊東玄朴と西洋医学—蘭法の魁—」

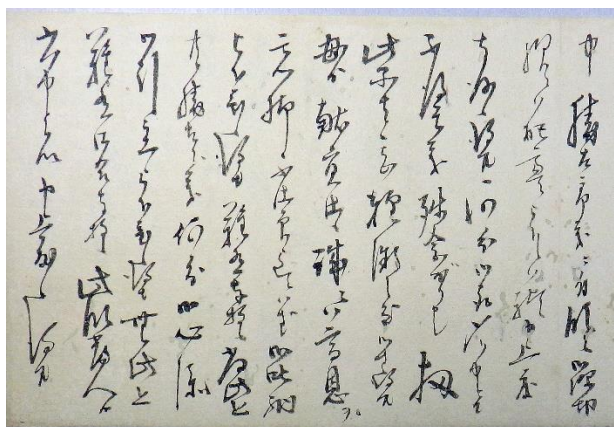
令和 3 年 10 月 8 日（金）～11 月 7 日（日）

「蘭法大いにひらけ、僑傑輩出す、しかして伊東玄朴これが為に魁たり」、儒学者・古賀侗庵は玄朴の功績をこう称えました。幕末の医師・伊東玄朴（1801～1871）は、佐賀に生まれ、長崎で猪俣傳次右衛門やシーボルトに学び、その後江戸で開業のかたわら佐野常民・寺島宗則ら多くの人材を育成しました。また蘭方医（西洋内科医）として初めて幕府医師に登用され、西洋医学興隆の礎を築きました。令和 3 年（2021）はその没後 150 年にあたることから、あらためてその生涯と功績をたどります。

※なお、新型コロナウイルス感染対策のため、中止・延期となる場合があります。

【主な展示予定資料】

キヨソネ筆シーボルト肖像画、伊東玄朴肖像画（複製、下図）、「漫遊随筆 乾（象先堂方府）」、『医療正始 附医院類案』、伊東玄朴書簡（阿蘭陀通詞中山作三郎あて、計 2 通、うち 1 通は新発見資料）、竹内玄同肖像画・叙任宣旨他



伊東玄朴書簡（中山作三郎あて、部分）

伊東玄朴の直筆書簡で、昨年勝太郎の件で御世話になったことを母（猪俣氏）にかわって礼をのべると共に今後の心添えを願ったもの。書簡中の「勝太郎」は天保 4 年に阿蘭陀稽古通詞手代となった岩瀬勝太郎（猪俣源三郎の長男）で、通詞就任にあたり当時大通詞だった中山が何らかの世話をしたため、その礼を述べたものか。中山が江戸番通詞として上京した天保 5 年（1834）に書かれた書簡と推察される。

新発見資料。



第84回企画展「長崎地役人 横山家資料展」を開催しました

長崎市の横山定子様から貴重な資料をご寄贈いただいたことに伴い、令和3年2月9日（金）～3月21日（日）、企画展を開催しました。

横山家は、江戸時代初期に平戸から長崎に移住し、以後オランダ通詞・町司などの地役人をつとめた、長崎の旧家です。

当館の企画展としては、第83回企画展（平成31年4月～令和元年6月）以来、約1年10カ月ぶりの展示となりました（常設展展示替えは除く）。新型コロナの影響で観光客は激減していますが、市民の関心は高く多くの来館者がありました。



『鳴滝紀要』第31号を発刊しました。

研究誌『鳴滝紀要』の最新刊（A4判、92ページ）をこのほど発行しました。

定価は1冊1,300円。記念館で販売しているほか、郵便でも受け付けております（その場合は送料が別途310円かかります）。バックナンバー第7号～（8・9・25・26号完売、7号はあとわずか）もございます。くわしくは記念館までお問い合わせください。

＜主な内容と著者＞（敬称略、なお肩書は執筆時のものです）

- ・江戸滞在中のオランダ商館長ドゥ・ステュルレルとシーボルトの関係（2）
ドゥ・ステュルレル「江戸参府日記」に基づく諸考察を中心に－
梶 輝行（横浜薬科大学教授）
- ・アレクサンダー・フォン・シーボルト『東亜政論——1898年7月から1900年9月まで——』（1）
堅田 智子（流通科学大学講師）
- ・横山家資料の寄贈について
織田 毅（シーボルト記念館長）
- ・令和2年利用状況・事業報告・職員名簿

令和3年（2021）9月 17日発行 シーボルト記念館
〒850-0011 長崎市鳴滝 2-7-40

TEL 095-823-0707 FAX 095-823-0170
E-mail siebold@city.nagasaki.lg.jp